



Sharing Energy with the World

Energy supports everyday life and society.
Providing energy when and where it's needed,
Is our greatest responsibility.

伊藤忠エネクス株式会社

2013年3月期 決算説明資料

CONTENTS

- (P2) 環境認識
- (P3) 連結損益計算書
- (P4) 連結貸借対照表
- (P5) 連結キャッシュ・フロー計算書
- (P6) 連結販売数量
- (P7) セグメント別情報
- (P8～17) 2012年度の取組
- (P18～20) Core & Synergy2013
- (P21～26) 2014年3月期通期見通し
- (P27) 配当方針

環境認識

		2011年 3月末時点	2012年 3月末時点	2013年 3月末時点	3月末差
DUBAI原油	\$/BBL	109.48 (3/31時点)	120.41 (3/30時点)	107.09 (3/30時点)	△ 13.32
通関CIF原油	円/KL	53,400 (3月平均)	61,896 (3月平均)	68,403 (3月平均)	+6,507
CP (プロパン)	\$/トン	820 (3月分)	1,230 (3月分)	895 (3月分)	△ 335
WS (ワールドスケール)	-	129 (3月平均)	121 (3月平均)	178 (3月平均)	+57
為替(TTS)	円/\$	84.15 (3/31時点)	83.19 (3/31時点)	95.05 (3/31時点)	+11.86
エネクス株価	円/株	476 (3/31時点)	489 (3/31時点)	555 (3/31時点)	+66

連結損益計算書

(単位: 億円)

	2011年度 通期実績	2012年度 通期実績	前年同期 増減率
売上高	14,142	14,307	1.2%
営業利益	90	137	53.0%
経常利益	95	130	36.9%
当期純利益	39	56	43.2%

POINT

産業用燃料、アスファルトの販売数量増販、東京都市サービス(株)の熱供給事業、電熱供給事業の収益貢献、家庭向けLPガス販売事業の貢献

※ 売上高・営業利益・経常利益の過去最高を達成

連結貸借対照表

(単位: 億円)

	2012年3月末	2013年3月末	増減額
流動資産	1,979	1,931	△ 48
固定資産	1,072	1,307	235
流動負債	1,731	1,622	△ 109
固定負債	358	550	192
純資産	961	1,065	104
総資産	3,051	3,237	187

POINT

- 【流動資産】 売上債権の減少 【固定資産】 TTS 固定資産の増加
 【流動負債】 仕入債務の減少 【固定負債】 社債の発行による増加
 【純資産】 TTSへの出資に伴う少数株主持分の増加等

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2011年度 通期実績	2012年度 通期実績	増減額
営業活動CF	▲ 3	216	219
投資活動CF	▲ 69	▲ 250	△ 181
財務活動CF	▲ 14	60	74

	2012年3月末	2013年3月末	増減額
現金同等物 期末残高	153	179	26

POINT

【営業活動CF】 売買所要資金の改善など

【投資活動CF】 TTS株式取得による支出及びそれに伴う貸付など

【財務活動CF】 社債発行等の有利子負債の増加による収入、配当金支払など

連結販売数量（主要6品目）

（単位：千kl、千t）

	2011年度 通期実績	2012年度 通期実績	前年比
ガソリン（千kl）	4,266	4,317	1.2%
灯油（千kl）	2,150	2,099	△2.4%
軽油（千kl）	3,214	3,387	5.4%
重油（千kl）	5,084	4,422	△13.0%
燃料油【計】（千kl）	14,714	14,225	△3.3%
アスファルト（千t）	300	372	24.0%
LPガス（千t）	633	619	△2.2%

POINT

【ガソリン・軽油】産業マテリアル事業本部での新規顧客獲得による増販達成

【アスファルト】自社保有タンクや運搬船の定期傭船などの流通機能拡充による増販

セグメント別情報

(単位:億円)

		2011年度 通期実績	2012年度 通期実績	前年比
産業マテリアル事業	売上高	1,468	1,849	26.0%
	営業利益	21	48	129.7%
カーライフ事業	売上高	5,626	5,478	△2.6%
	営業利益	51	47	△7.9%
グローバル事業	売上高	6,038	5,919	△2.0%
	営業利益	11	21	88.0%
ホームライフ事業	売上高	964	1,016	5.4%
	営業利益	37	45	20.0%
トータルライフ事業	売上高	30	36	21.9%
	営業利益	▲9	▲5	↑
その他 (調整額等)	売上高	15	9	—
	営業利益	▲21	▲17	—
全社【計】	売上高	14,142	14,307	1.2%
	営業利益	90	137	53.0%

2012年度の取組（コア事業の強化）

成長戦略1：物流機能の高度化と最適化

①タンク網の整備（アスファルト・石油製品・アドブルー）

＜アスファルト基地／全国13カ所＞
総容量3万9,300トン



【国内最大】
袖ヶ浦
アスファルト基地
10,000トン
(竣工 2012年10月)

＜石油製品貯蔵基地／3カ所＞
(江田島、大井川、長崎)
タンク総量163,400KL

江田島油槽基地



大井川油槽所



＜アドブルー配送拠点／全国17カ所＞



長崎ガス石油基地



2012年度の取組（コア事業の強化）

②海上輸送体制の整備（アスファルト、石油製品）

<アスファルトタンカー>

『Black Dragon』号

- 積載量 2,300トン
 - 竣工 2012年9月
- 外航船



<白油内航タンカー>

『ひまわりGT』号

- 積載量 2,000KL



『Great Crane』号

- 積載量 1,000トン
 - 竣工 2013年5月
- 内外航船



<自社専用配給船>

（国内船舶燃料／主要港に8隻）



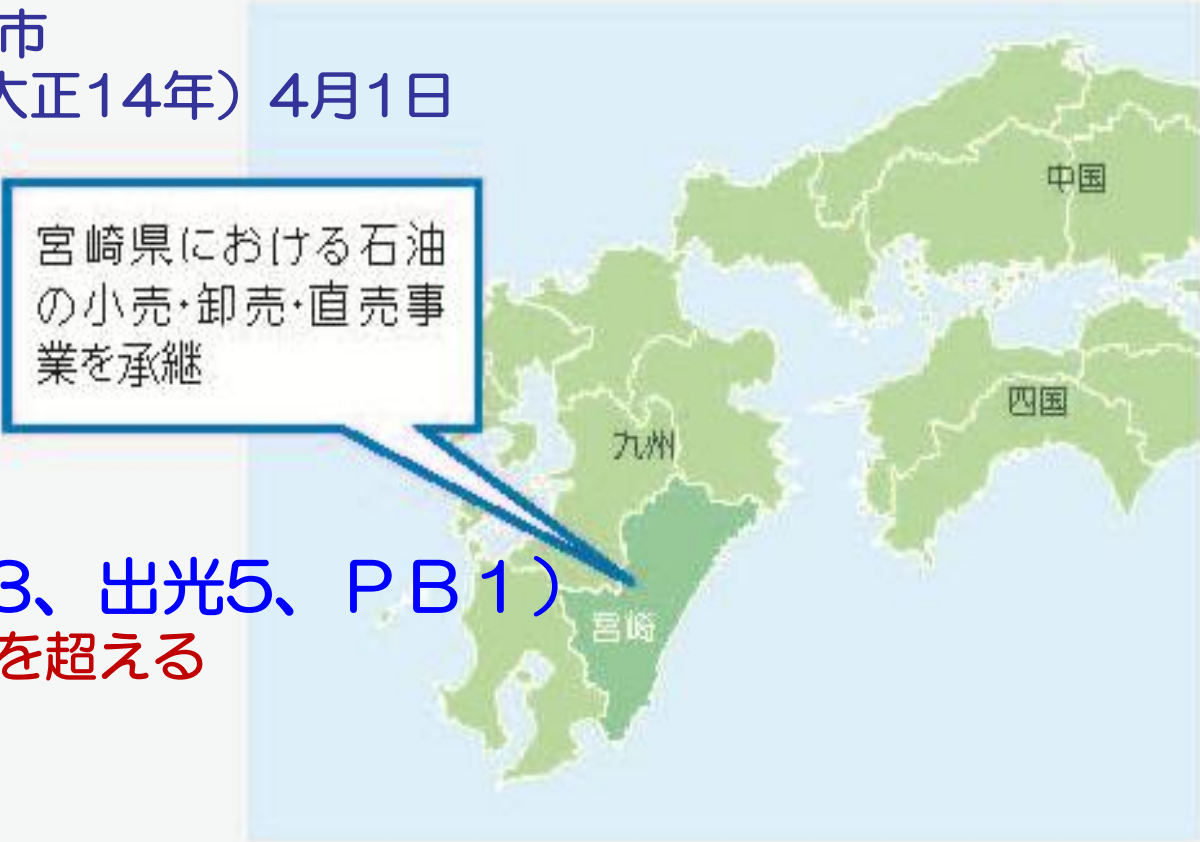
2012年度の取組（コア事業の強化）

成長戦略2. 石油製品販売事業の地域展開

■株式会社日米商会の石油事業を承継（2013年3月～）

所在地：宮崎県宮崎市

設立：1925年（大正14年）4月1日



宮崎県における石油
の小売・卸売・直売事
業を承継

37CS

（EM18、JX13、出光5、PB1）

宮崎県下にて、15%を超える
販売拠点シェア確保

2012年度の取組（コア事業の強化）

成長戦略3：LPG事業における販売力の強化

■株式会社イングエナジーを設立

株式会社イングコーポレーションと資本提携（2013年4月）
LPG事業の共同経営を開始。



所在地：埼玉県鴻巣市

設立：2013年4月1日～

代表取締役社長：中山昭生

物流分野の合理化・効率化と共に
販売分野でも両社シナジーを発揮し、
持続的な発展を図る。

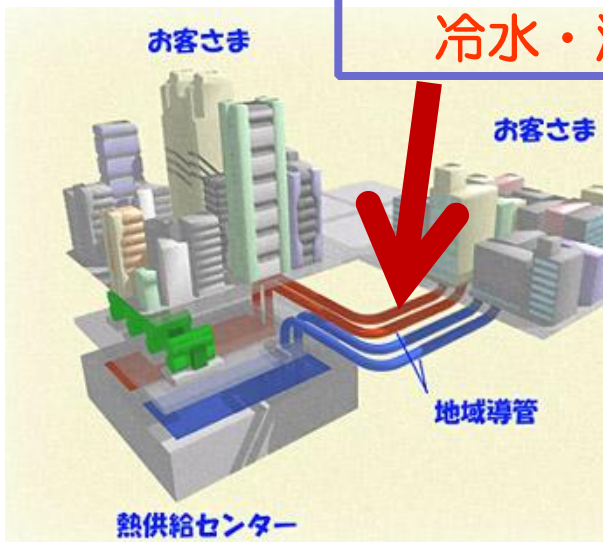
2012年度の取組（エネルギーのベストミックス提案）

成長戦略4. 熱供給関連事業への参入

- 会社名 東京都市サービス株式会社
- 所在地 東京都港区南麻布2 - 11 - 10（設立 1987年9月9日）
- 株主 伊藤忠エネクス 66.6% 東京電力 33.4%
- 事業所 熱供給センター17ヶ所、蓄熱技術センター1ヶ所

熱供給事業

冷水・温水を供給



晴海アイランド供給センター
（晴海トリトンスクエア内）

アイスバンク

建物毎に熱源設備を設置
冷暖房・給湯を電気式で供給



設備・メンテナンスを一括で受託

2012年度の取組（エネルギーのベストミックス提案）

成長戦略5. 電力関連事業の推進

①JENホールディングス 発電能力の増強（合計：130,640kw）

防府エネルギーサービス(株)

- 所在地：山口県
- 火力発電（石炭火力）
- 50,550Kw ⇒ 発電能力を増強中



上越エネルギーサービス(株)

- 所在地：新潟県
- 火力発電（天然ガス、C重油）、水力発電
- 55,090Kw ⇒ 発電能力を増強中



尼崎エネルギーサービス(株)

- 所在地：兵庫県
- 火力発電（ガスタービン）
- 4,000Kw



2012年度の取組（エネルギーのベストミックス提案）

②再生可能エネルギーの推進

株式取得によりグループ化（2012年10月） JEN昆布盛ウインドファーム(株)

- 所在地：北海道根室市昆布盛
- 風力発電
- 10,000Kw
- 基体数：6基（1,500Kw×5、2,500Kw×1）



JEN玖珠ウインドファーム(株)

- 所在地：大分県玖珠郡
- 風力発電
- 11,000Kw
- 基体数：11基（1,000Kw×11）



2012年度の取組（シナジーの創出）

成長戦略6. トータルライフ事業本部の展開

■コア事業である石油製品・LPガス販売事業に加え、太陽光発電システムや家庭用燃料電池「エネファーム」などの販売事業を展開。



■家庭用リチウムイオン蓄電システム『エネパワボ』の販売

- 夜間電力を蓄えて昼間に使うことで 電気代を削減
- 非常時には停電を自動で感知し蓄えた電気を利用



2012年度の取組（シナジーの創出）

■ 地域に密着し、車と住まいの商材提案を行う 「eコトショップ」をオープン

eコトショップ姫路しかま
兵庫県姫路市に2012年6月オープン



■ eコトショップ四街道 千葉県四街道市（2012年1月オープン）



■ eコトショップ四季が丘 広島県廿日市（2012年3月オープン）



2012年度の取組（災害復興への継続支援）

成長戦略7. 災害対応型エネルギー配送拠点の拡大

自家発電設備と防災士を常駐

■通常時⇒医療機関や介護施設、食品工場等へエネルギーを供給

■災害時⇒避難所や公共施設等に優先的にエネルギーを供給

絆ネットセンター利府
（宮城県利府町2012年10月）

絆ネットセンター深谷
（埼玉県深谷市2013年3月開設）



地域自治体と防災協定
を締結。



グループ中期経営計画

Core& Synergy 2013

～変革の実行を通じて新たなステージへ Phase II～

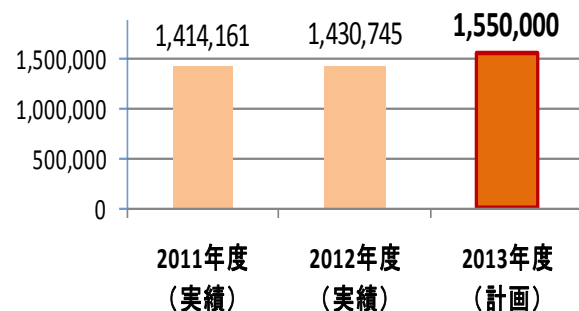
対象期間

3カ年(2011年度～2013年度)

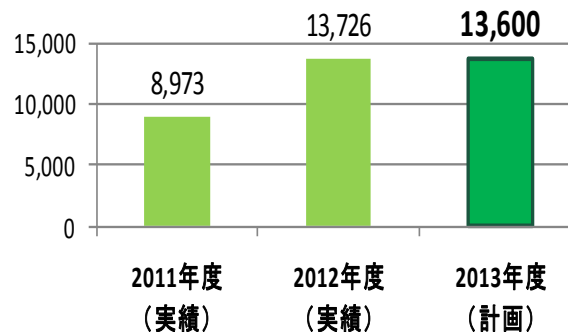
基本方針

50年にわたって培ってきた様々なネットワーク、資産を総動員しCore事業の強化・高度化と、創造型需要の開拓と取り込みを行い、エネルギーのベストミックス提案型企业として地域社会と共に持続的な成長を実現しながら、収益拡大を狙う。

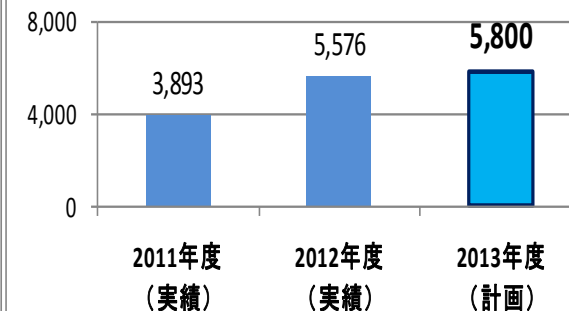
売上高



営業利益



当期利益

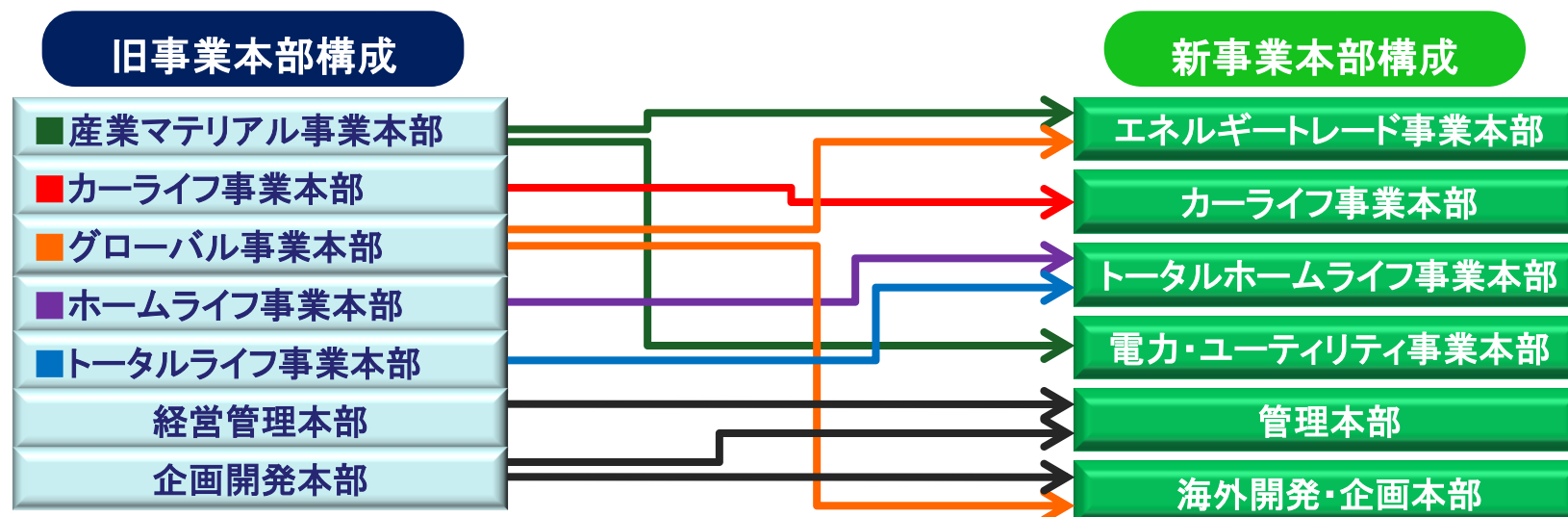


Core&Synergy2013

経営環境の変化に柔軟に対応しながら、グループ中期経営計画「Core&Synergy2013」の総仕上げへ

2013年度は新組織体制にてスタート

コア分野の「石油製品・LPガス販売事業」の拡大・充実
「電力・ユーティリティ事業」と「海外事業」を注力分野と位置づけ。



狙い

“スピード” “柔軟性” “ガバナンス” の向上

Core&Synergy2013

海外プロジェクト開発部の紹介

2年間の投資実行案件

① IP&E Palau 社への事業投資

《パラオでのCS・産業用石油製品卸事業 国内シェア約50%》
⇒パートナーとの関係強化を通じ、他エリア、他事業の可能性を模索

② Beatrice Funding LLC への投資

《アメリカでのバイオディーゼル製造事業》
⇒革新的触媒技術を持つ。アジア展開における優先交渉権も取得。



IP&E Palau社
ディストリビューション
施設



Beatrice社バイオディーゼルタンク

2014年3月期通期見通し（全社）

（単位：億円）

収支（連結）	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期見通し	前年比
売上高	14,307	15,500	8.3%
営業利益	137	136	△0.9%
経常利益	130	131	1.1%
当期純利益	56	58	4.0%
※投資額 = 有形・無形固定資産の取得 + 投資有価証券			
投資額	207	230	11.1%
減価償却額	68	62	△7.9%

- コアビジネスの体質改善・体質強化と基盤の拡大（石油・ガスビジネス）
および周辺分野の新規事業発掘・立上げによる収益要素の上積み
- 電力・ユーティリティビジネスおよび海外事業の着実な成長軌道への
取組み

2014年3月期通期見通し（全社）

（単位：千kl、千t）

石油製品販売数量（連結）	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期見通し	前年比
ガソリン（千kl）	4,317	4,600	6.5%
灯油（千kl）	2,099	2,200	4.8%
軽油（千kl）	3,387	3,400	0.4%
重油（千kl）	4,422	4,300	△2.8%
燃料油【計】（千kl）	14,225	14,500	1.9%
アスファルト（千t）	372	427	14.8%
LPガス（千t）	619	647	4.5%

エネルギートレード事業

※新セグメント組替後
【参考値】

(単位:億円)

	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期見通し	増減率
売上高	7,325	7,400	1.0%
営業利益	38	34	△10.2%

< 2014年3月期の取組み >

■物流機能の最適化と高度化

(タンク、専用タンカー、専属ローリー、小口配送、配給船など)

■供給体制及び需給調整機能の強化による

取引先・エリアのニーズに応える選択肢の拡充

■販売力を支えるリスク管理体制の強化

カーライフ事業

※新セグメント組替後
【参考値】

(単位:億円)

	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期見通し	増減率
売上高	5,592	6,470	15.7%
営業利益	35	40	14.5%

< 2014年3月期の取組み >

- 安定販売数量の拡大(系列CSの販売力強化)
- リテール機能の強化による既存販売店及びグループ会社の高収益型CS運営の提案
- 車関連事業への積極投資(M&Aや他社とのアライアンスによる将来への布石)

トータルホームライフ事業

※新セグメント組替後
【参考値】

(単位:億円)

	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期見通し	増減率
売上高	1,119	1,300	16.2%
営業利益	40	43	6.7%

< 2014年3月期の取組み >

- コア(LPガス)事業のシェア拡大(直売の拡充、卸の強化、エリア戦略の構築)
- 太陽光発電システム、燃料電池「エネファーム」、蓄電池「エネパワボ」等の新エネルギー機器の拡販
- 事業領域の拡大・海外進出の検討、検証(一般高圧ガス、LPG事業のアジア圏の進出)

電力・ユーティリティ事業

※新セグメント組替後
【参考値】

(単位:億円)

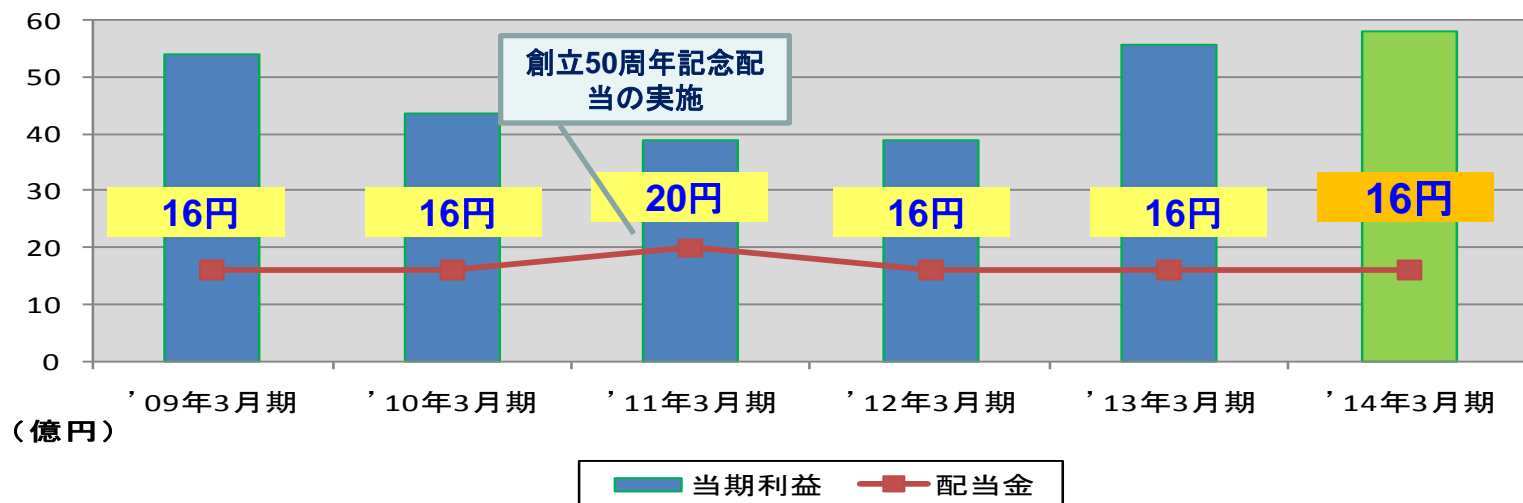
	2013年3月期 通期実績	2014年3月期 通期見通し	増減率
売上高	263	330	25.6%
営業利益	23	20	△11.3%

< 2014年3月期の取組み >

- 既存施設の増強による競争力強化／新規発電所による電源開発
- 自社電源をベースとした製販一体での電力小売り拡大
- 熱関連事業における独自営業ルートの開発とサービスメニューの拡大

配当方針

- 配当性向30%以上を目標。
- 通期の配当は業績を勘案しながら対応。



	'13年3月末	'14年3月末 見通し
配当性向	32.4%	31.2%
EPS(1株当たり当期純利益)	49.36円	51.33円
BPS(1株当たり株主資本)	868.69円	897.06円

ご清聴ありがとうございました

(1)ご注意

●資料の内容につきましては細心の注意を払ってはおりますが、掲載された情報の誤りおよび当資料に掲載された情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

●また、当資料に記載されている当社の現在の計画、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報を基礎として作成した見通しであり、これらの将来予測には、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

(2)問い合わせ先

伊藤忠エネクス株式会社 調査広報部IR広報課

【TEL】03-6327-8003 【FAX】03-5418-2202

【E-MAIL】enex_irpr@itcenex.com